

【脱炭素経営フォーラム2022】

CFP算定による削減施策検討の優先順位の明確化 『明治ミルクチョコレート50g』

2023年3月6日

明治ホールディングス(株)

サステナビリティ推進部

本日のアジェンダ

- 明治グループの紹介
- 経営戦略におけるCFPの位置付けと期待
- CFP算定の概要
- 排出源毎の排出量の定量化に伴う
削減施策の優先順位付けと課題

明治グループの紹介：創業の精神



- 1916年 明治製菓(株)の前身である『東京菓子(株)』設立
- 1917年 明治乳業(株)の前身である『極東煉乳(株)』設立
- 2009年 明治製菓(株)・明治乳業(株)の経営統合
明治ホールディングス(株) 設立
- 2011年 (株)明治・Meiji Seikaファルマ(株) 設立

～創業の精神～

**人類共栄の主義のもと、
質実剛健・至誠奉仕・栄養報国**

食、薬、栄養を通して、人々の心身ともに
健康な生活に貢献するための活動を行う



明治グループの紹介：事業領域

赤ちゃんからお年寄りまであらゆる世代のお客さまに寄り添い、
毎日の生活に欠かせない「乳製品」「菓子」「栄養」「医薬品」などの
幅広い分野の製品を通じて「おいしさ・楽しさ」の世界を広げ
「健康・安心」への期待に応えてゆくことを使命として事業活動を営んでいます。



明治グループの事業は、豊かな自然の恵みの上に成り立っている。

経営戦略におけるCFPの位置付けと期待

明治グループ長期環境ビジョン Meiji Green Engagement For 2050

自然の恵みの上に成り立っている企業として、将来にわたって**自然との共生**を図るために、
企業活動に伴う**環境負荷の最小化**を図り、**持続可能な地球環境の実現**に貢献する。



4つ活動ドメイン

気候変動



水資源



資源循環



汚染防止



経営戦略におけるCFPの位置付けと期待

■明治グループにおけるGHG排出量削減目標



明治グループが特に取り組む項目

経営戦略におけるCFPの位置付けと期待

■現状の明治グループにおけるGHG排出量（2021年度）

Scope 1

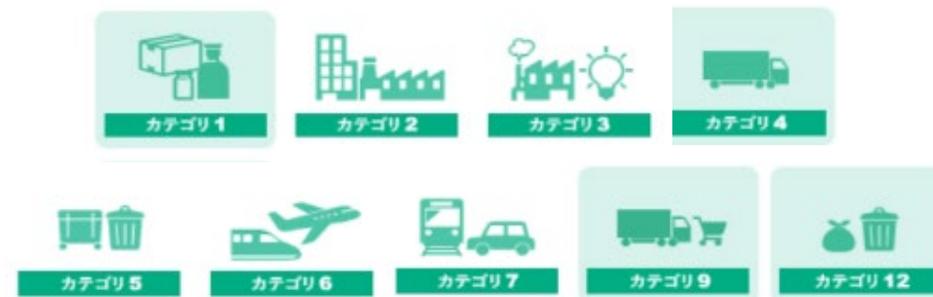
Scope 2

Scope 3

53.6万トン-CO₂

322.7万トン-CO₂

85%が
自社以外



明治グループが特に取り組む項目

経営戦略におけるCFPの位置付けと期待

■ Scope3 排出量の内訳



経営戦略におけるCFPの位置付けと期待

■ CFPの役割

- ① ライフサイクルの各プロセスにおけるGHG排出量の「見える化」により**GHG排出量削減の優先順位付け**ができる。
- ② カーボンニュートラル実現に向けて、消費者が**GHG排出量のより少ない製品を選択する**必要があり、その根拠としてCFPによる「見える化」が不可欠。

■ GHG排出量削減により期待できる効果

【生産者】

- ① GHG排出削減量のクレジット化などによる**新たな収入源**
- ② GHG排出削減をした**原材料の付加価値化**による収入増

【明治グループ】

- ① 新たな**市場機会の獲得**（例）カーボンゼロ〇〇の発売など
- ② カーボンプライシングへの対応⇒**コスト負担の低減**
- ③ 原材料の**持続可能な調達**の推進

CFP算定の概要（算定商品）

■ 算定対象商品：『明治ミルクチョコレート50g』



■ チョコレートカテゴリーの選定理由

- ① 生乳に次ぐ主要原料である**カカオ豆**を原料としており、**市場シェアはトップ**。
- ② チョコレートでのCFP算定方法は、**他のカテゴリーにも展開し易い**と想定。

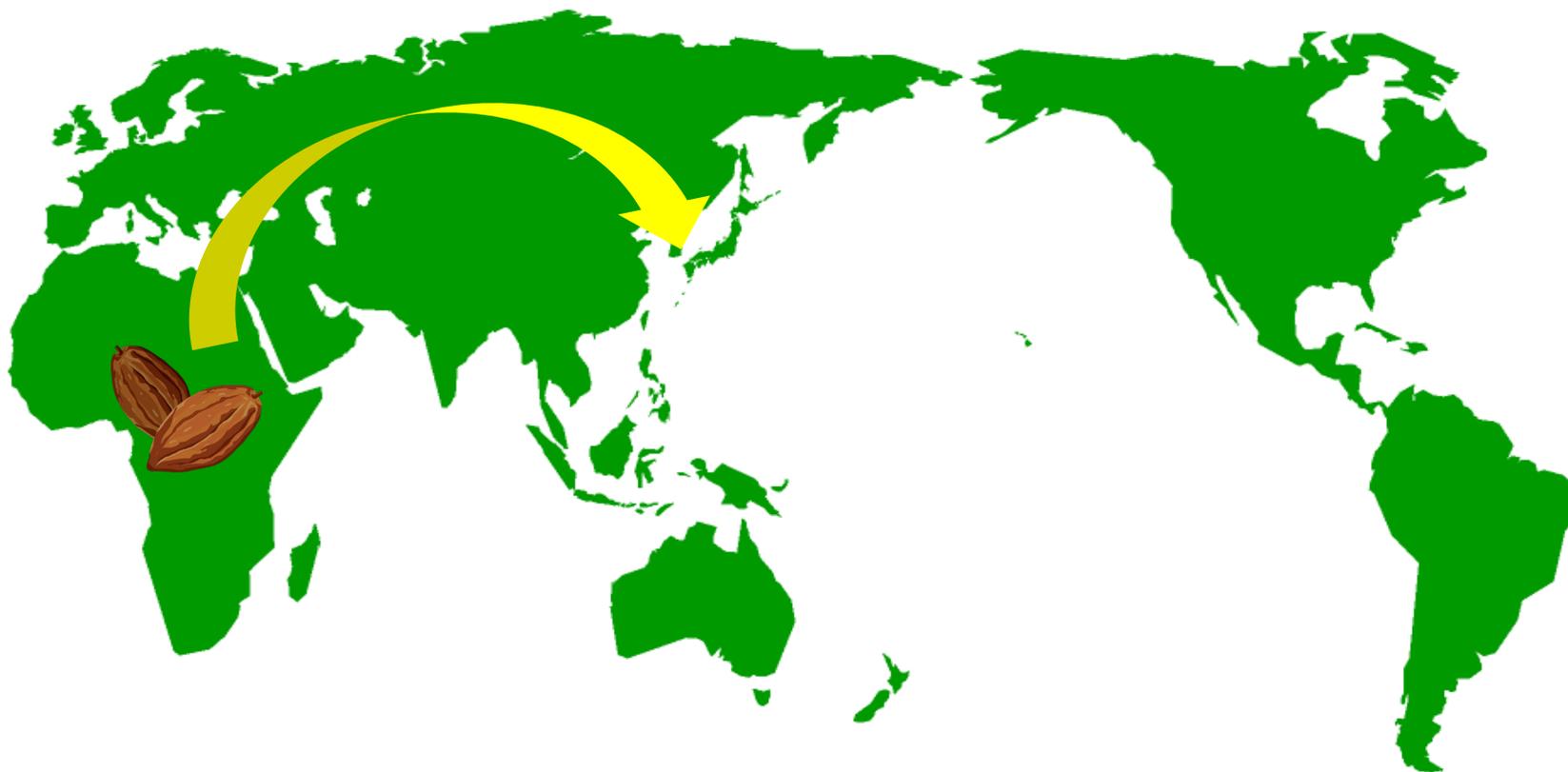
■ ミルクチョコレートの選定理由

- ① カカオ事業における**代表ブランド**、2026年度には発売100周年。
〔meijiブランドとの親和性、市場浸透度の高さ(認知率、販売金額)〕
- ② 製造工程や配合など**シンプル**な製品設計 ⇒ **CFP算定がし易い**と想定。

排出源毎の排出量の定量化に伴う削減施策の優先順位付けと課題

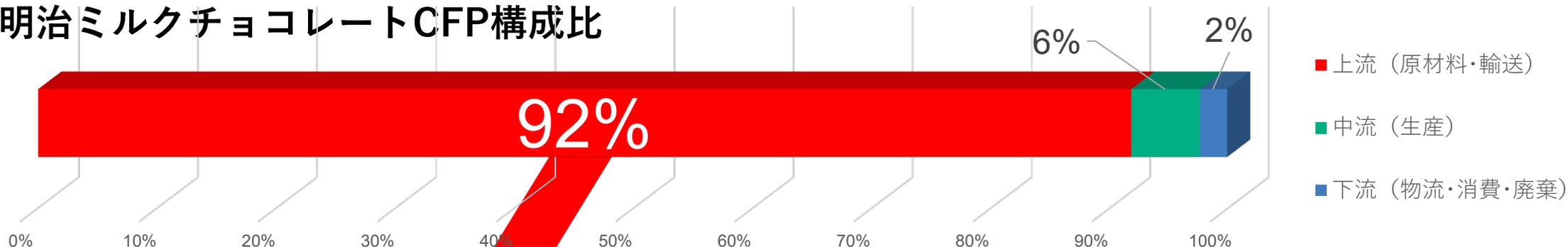
■ C F P 算定前の仮説

- ① カカオ豆は**植物**なので、原料由来の**GHG排出量はそれほど多くない**。
- ② カカオ豆は海外産のため、**フードマイレージが高く**その影響が大きい。

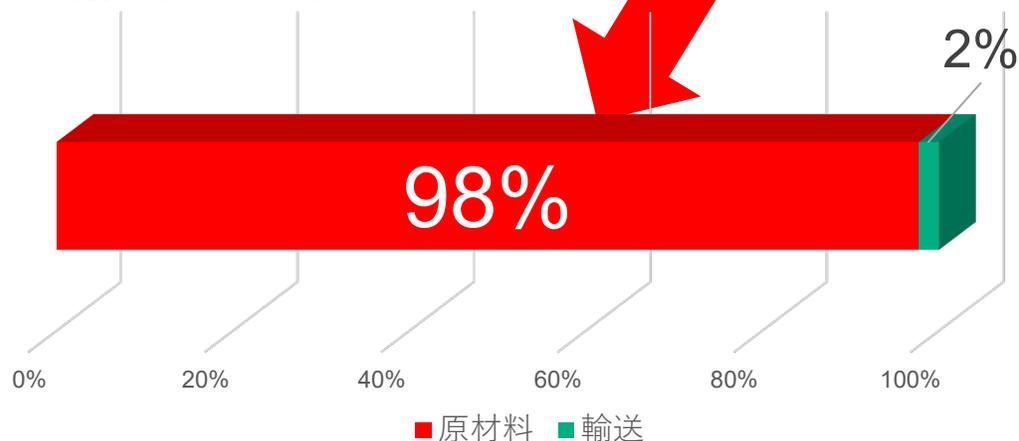


排出源毎の排出量の定量化に伴う削減施策の優先順位付けと課題

■明治ミルクチョコレートCFP構成比



■上流部分の内訳



■原料別の排出係数の比較

原材料		排出係数 (kgCO2e/kg)	出典元
チョコレートに絡む原料	カカオ豆 (世界平均)	[データ非表示]	[データ非表示]
	砂糖		
	全脂粉乳 (脱脂粉乳)		
参考 他農産物	小麦 (世界平均)		
	とうもろこし (世界平均)		
	大豆 (ブラジル)		

- ① 上流部分の中で原材料の割合が**98%**を占め、**カカオ豆由来が非常に大きい**。一方、**輸送は僅か2%**。
- ② **カカオ豆は、他の農産物と比べて排出係数が非常に大きい【第一の優先課題】**

排出源毎の排出量の定量化に伴う削減施策の優先順位付けと課題

■課題①：カカオ豆の排出係数低減への対応

〔カカオ豆の排出係数が大きい理由〕

「過去の土地利用における森林伐採面積」と「生産量の少なさ」に起因

【生産地における過去の森林伐採】



【生産量】



【排出係数】

〔大豆〕

小

〔カカオ豆〕

大

排出源毎の排出量の定量化に伴う削減施策の優先順位付けと課題

■課題①解決に向けての取り組み

◇調達しているカカオ豆の実態に則した排出係数の算出が必要。

- ① 森林伐採に関与していないカカオ豆の調達を推進。
- ② カカオ豆の単位面積当たりの収穫量の向上。

■明治グループのカカオ産地での取り組み

① 明治独自の**カカオ農家支援活動「メイジ・カカオ・サポート」**の実施。

* 森林減少への取り組み

〔アグロフォレストリー農法の推進、森林教育、苗木の配布、森林保全活動など〕

* カカオ豆の生産性向上

〔収穫量を増やす栽培方法、肥料・農薬の使用方法の指導〕

② 2026年度までに**「明治サステナブルカカオ豆」**の調達比率100%に向けて調達活動を推進。⇒2022年度の調達比率**約63%(見込)**

◇将来的には、こうした取り組みを反映した排出係数を算出したい。

排出源毎の排出量の定量化に伴う削減施策の優先順位付けと課題

■課題②：消費者の環境に配慮した消費促進への対応

◇消費者にとって付加価値となるような情報発信・普及啓発が必要。

- ① カーボンニュートラルの必要性を訴求。⇒ **GHG削減への意識醸成。**
- ② 製品CFPが消費者の**購買の判断基準**になるような**行動変容**を促進。
- ③ 低炭素／脱炭素製品が**割高でも購入してもらえる消費行動**の促進。

■課題②解決に向けての今後の取り組み

- ① 消費者に誤解を与えぬよう**実態に即したCFP算定結果の開示**が必要。
- ② 「GHG削減量」、「環境負荷低減への貢献度」など「**見える化**」する仕組み構築。
⇒ **消費者にとっての付加価値化に繋げる。**
- ③ **低炭素／脱炭素製品の発売**による消費の促進。
- ④ **エシカル消費促進**に向けて、官民が連携した情報発信・普及啓発活動。

ご清聴ありがとうございます。